

「保育」の原点 112

乳児期に大事なのは、人間愛をしみ込ませること(1)

文 葛西得男
text by Tokuo Kassai赤 ちゃんのお心育てる〴〵という
と、何かしつけの特別なやり方
があつてそれを教えること、と考える人
がいるかもしれませんが、乳児期には特
に意図的なしつけは必要ありません。そ
れより、この時期に大事なものは、人間愛
を十分にしみ込ませることです。そこで気になるのは、欧米の育児法
を信奉して実践しているお母さんたちで
す。欧米の育児法の中には、確かに合理
的で、学ぶべき点も少なくありません。
しかし、それ故にこそ問題があるともい
えます。現に欧米では、従来のやり方で
赤ちゃんに自立心を植えつけようとする
育児法を反省する気運が高まっているの
です。先日、ある週刊誌でちよつと気にかか
る記事を読みました。日本の女性がイギリスの中流家庭に住み込み、あちらの育
児方法に感銘を受けたという記事です。
赤ちゃんは生後6カ月です。ミルクは1日5回、朝7時から夜11時
まで、きちんと時間を決めて、1分とは
狂わせずに飲ませます。その間、赤ちゃん
がどんなに泣こうが絶対に与えませ
ん。おむつのとり替えは食後30分。夕方
5時半に最後のおむつをとり替えると、
6時にベッドに寝かせ、翌朝まで、授乳
時以外は声もかけないし手も触れないの
です。夜中にどんなに泣き叫ぼうが、一
人にしておくのです。といつても、放り出しているわけでは
ないのです。夜泣きをし始めると、やは
り病気ではないのかと心配になって、お
母さんは、カギ穴から30分でも1時間で
ものぞくのです。そばに駆けよつて抱き
上げてやりたい母性愛と闘うお母さんの
姿に、この女性は感心させられたとい
います。その赤ちゃんは、規則的な生活のせい
か大変丈夫に育ちました。おまけに甘や
かしていいからお行儀がよく、決めら
れた時間にしか食べる習慣がないので、大人がおやつを食べているのを見ても食
べたがりません。日本の女性は、「かわいがるばかりが
愛情ではない。
つらいけれど
心を鬼にする方
が、本当の母性
愛だ」と感銘を
受けたというの
です。(続く)
『育児の原理』より

Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。
1975年に帰国後、アップリカ葛西に入社。営業部、副社長、
社長を経て、1996年に社会福祉法人 松稲会 理事長に就任。
松稲会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と
認可保育園マザーシップ保育園を運営している。
アップリカ葛西 副社長時代に国連環境計画 (UNEP) のスペシャ
ルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプ
ロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活
動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。内藤寿七郎著
『育児の原理』